

国際交流基金事業外国人学識者招聘プログラム（アポイントメント）実施報告書
明治大学国際日本学部 教授 張競

招請者氏名 王勇

所属機関 浙江大学日本文化研究所・教授

招請期間 2017年7月5日～2017年7月15日

講演ならび学术交流の実施経過

王勇教授は2017年7月5日中国・杭州を出発し、当日の夕方成田空港に到着しました。招聘者は空港まで出迎え、宿泊予定の生田ゲストハウスに案内しました。

一日の休憩の後、7月7日の朝、王勇教授は招聘者に伴われて、明治大学国際連携事務室に表敬訪問し、事務的な手続きを済ませました。その後、中野キャンパスに移動し、516教室で「ブックロード ― 書物の伝来と遣唐使の役割」と題する講演が行われました。ブックロードは王勇教授がはじめて提起した文化交流史の概念で、国際交流基金賞を受賞する理由の一つになっています。日本の学界で知名度が高いということもあって、講演には本学の大学生や大学院生だけでなく、東京大学や筑波大学の教員や大学院生、並びに王勇教授の著書を読んだという市民も参加し、聴衆が100名を超える大盛況でした。質疑応答が多く、予定の時刻を過ぎて終了しました。その後、場所を変えて、他大学の参加者と意見交換しました。

2017年7月8日、中野キャンパス311教室で「無声の対話 ― 東アジアの「筆談」コミュニケーション」と題する2回目の講演をしました。王勇教授の新しい研究課題である筆談の文化史的意味について情熱をこめて講義しました。その日は土曜日ということもあって、本学文学部教授のほか、他大学の教員と大学院生および市民も多数参加し、聴衆は1回目を上回り、大教室がいっぱいになるほどでした。講演の後、文学部の神鷹徳治教授にコメンテーターとしてご登場いただき、続いて他大学の教員や本学の学生からの質疑がありました。

王勇教授が本学に訪れることを聞いて、他大学からもぜひ交流をしたいと要望が寄せられましたので、2017年7月13日には、東京大学駒場キャンパスで東京大学村田雄二郎教授をはじめ、首都圏のいくつかの大学の研究者たちと学术交流を行いました。

2017年7月15日、日本でのすべての日程を終えた王勇教授が10時10分発の全日空929便に乗って帰国し、当日、無事に中国・杭州に戻りました。

つきましては、実施報告を申し上げます。